

オホーツクの風

令和6年8月26日(月) 0030号

発行所

北見赤十字病院の明日を考え支援する会

北見市北二条東2丁目6-1
電話 0157-31-2854

最適な栄養バランスそして 病院での食事を楽しく

患者の皆さんと誠実に向きあう栄養課

私はI g G 4 関連胆管炎で、2018(平成30)年4月、

北見赤十字病院に入院。その時の日記に

日々の食事も記述。食事プレートにそ

れぞれの食器の略図を描き、料理名や材

料などをメモし、味や美味しさを記録し

た。退院までにA4の日記が十数枚にな

った。痛みを堪えながらの療養で食事はほと

とする一時間で、大いに楽しんだ。

この病院食の司令塔である栄養課が今

回の特集です。栄養課は医療技術

部に属し、管理栄養士の井田課長の基で

本院の5名と道立北見病院の1名の栄養

士が業務を遂行している。

患者の皆さん(以下患者と表示)の病

状に応じた食事を立案し、適切に提供し、

治療をサポートする、そして医師の指

示の基で栄養計画を立案し、献立の基本

的考えをまとめる。詳しくは、患者の

病気や栄養状態に合わせ、食事制限の

ない一般食や減塩食、低たんぱく食な

どの特別食、術後の食事などを考える。

また季節ごとの「行事食」や出産時の「お

祝い膳」などの提供も仕事の一部です。

病院食は治療としての役割だけでなく、入院中も食事を

楽しみ美味しく食べもらうために、その

アイディアや調理の工夫なども大事な

仕事です。

以上のような基本的考えを的確に外注

先の調理部門に伝達する。

これを受けて調理の現業部門で週間献

立が編成され、病棟に掲示される。そして

早朝から調理や盛り付けなど食事を整

え、23台の適温配膳車・デリカートで

日赤本体や道立北見病院の各病棟に届け

られる。

NST・栄養サポートチーム

NSTとは、医師、看護師、薬剤師、臨

床検査技師、理学療法士、言語聴覚士、

管理栄養士、事務員などで構成された医

療チームで、多職種が協働で患者の栄養

管理を行うことです。「Nutrition Support Team」の略い、



栄養サポートチームと呼ばれている。

病院には公式なNST委員会があり副

院長が委員長となり、診療部長外18

名で必要に応じて随時委員会が開催さ

れ、病気や手術のために十分な栄養が摂

れない患者への適切な栄養補給方法と病

気の回復や合併症の

予防に有用な栄養管理などが話し合われている。

この下部組織がNST(チーム)で、

毎週、カンファレンスが開催され、回診

などが行われる。

オホーツク振興局長、 から表彰

食事を治療のひとつと考え、病態や治療による影響に対応

可能な二百種類以上の献立を有し、患者

に寄り添い、安心安全な給食提供をめざ

して日々取り組んでいること。感染症への

対応を協議しながら、コロナ禍でも途

切れることなく給食提供をしたこと。N

ST活動。など同院の給食施設が評価され、今年4月、オホーツク振興局長表彰(保健衛生関係功労者)を受け、表彰状が井田栄養課長に手渡された。

栄養課の業務

日赤本院と道立北見病院の栄養課スタッフは、入院患者を

100人ほど、それぞれ受け持つてい

る。入院すると、直ぐに、ベッドサイドを

訪れ、患者の食習慣やアレルギーなどについて話し合いを行

い、情報が共有され、入院中の食事に活か

される。また完食しているか、食事がどの

ように食べ残しているかなどの情報も電子カルテに記憶さ

れる。

退院時には、同課の栄養士が栄養相談

室で献立見本などを示しながら、退院後の

食事指導が懇切丁寧に行われる。



栄養課の担当栄養士さんが患者退院後の食事指導の事前準備中(栄養相談室にて)

第8回 北見での思い出づくりの集い

研修医の皆さんをお招きし
お天気にも恵まれ
和やかに交流

2024(令和6)年7月28日(日)、当会が開催窓口となり、「第8回北見での思い出づくりの集い」が野付牛公園で開催。お招きの5名の研修医の皆さんと北見看護大のお二人、総勢23名が爽やかな緑のもとでバーベキューを楽しむ。今回は、2年次の皆さんが北見ICLSコースの受講と重なり、参加は出来なかったが、昨年の集いを思い出して研修に励んでいると想像しています。

ICLSとは「Intermediate Cardiac Life Support」の略語で蘇生トレーニングコースと云われ、医師や他の医療関係者の必須の研修です。心臓血管系の緊急病状で、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応」にチームで蘇生する事が目標です。講義はほとんど行わず、実技実習が中心のコースです。受講者は少人数のグループになり、実際の実習を繰り返して、蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につける。今回、北

見日赤が会場になり行われた。

集いの始まり

時を2014(平成26)年に戻す。慣れない土地で臨床研修に励む研修医の皆さんに北見市民として感謝の気持ちを伝え、北見での研修が少しでも楽しかったとの印象を人生の一コマに残して欲しく、焼き肉での交流を思い立つ。

当会の会費での開催は財政的に難しく、知人の紹介でこの年6月、(株)坂口精肉店の坂口政義代表取締役と面談し、当方の企画を説明し協力をお願いする。

「このようなことは北見市民の誰かがやらなければならぬこと、無償で全面的に協力します、詳しくは味覚園栄町支店と打ち合わせをして下さい」と即断して戴いた。またオホーツクビール(株)



北見赤十字病院 藤井事務副部長の音頭で乾杯

の当時の渡辺克良専務からも無償で協力するとの言葉を戴いた。そして、この年8月31日(日)、第一回目の集いが始まったのである。

皆さんそれぞれの発表

▽一年次K医師・

父が北見日赤にいたので、ここで研修をしている、産科が希望で道東、道北で働きたい、食事が美味しかった有難うご



お天気に恵まれ、野付牛公園は焼き肉日和



総務課のお二人は「職員お手伝い賞」をゲット



看護大のお二人には参加賞



研修医の皆さんは金賞外4本をあてる

↓ございます。
▽一年次S医師・
大学卒業まで東京



焼き肉コンロ卓「スズラン」の皆さん



焼き肉コンロ卓「フクジュソウ」の皆さん

で、この4月から北海道です。この研修を通じて、北見市民の皆さんのお役に立ちたい。
▽一年次N医師・



焼き肉コンロ卓「ミズバショウ」の皆さん



焼き肉コンロ卓「スマレ」の皆さん

鹿児島が出身、先輩に勧められ、ラクビィをやっています。
2年間で、道内の道の駅を回りたい、脳外科を目指しています。



研修医の皆さん各々の思いを発表

▽一年次M医師・出身は京都で、北大医学部卒業です。北海道で医師の道を究めたかと思っっています。
▽一年次W医師・岐阜の出身で、研修を通じて北見日赤に貢献したい。いたられり、つくせり、有難うございます
▽看護大3年Jさん・出身は苫小牧です。母が助産婦で高一の時から看護大を目指していた。大学院に進み、助産婦になりた

い。
皆さん、発表、有難うございます。
結びの三本締めの後、後片付けも無事に終わり、楽しい思い出を心にやどし、公園を後にした。ご参加戴いた皆さん、協賛企業の皆さん、感謝の気持ちでいっぱいですが、有難うございます。



結びは支援する会 表会計監査の首頭で三本締

日本赤十字社 本社を訪問

医療事業推進本部経営企画課長に事業説明

浜松町大門のホテルから数分の処に外観が煉瓦色の落ち着いた日本赤十字社本社の社屋がある。

令和6年6月3日午前、社屋の門をくぐると、直ぐ横に「殉職救護員慰霊碑」があり、立ち止まり、黙礼して正面玄関に約束の時間に到着。1階ロビーの受付で来意を告げると、2階応接室に案内され、医療事業推進本部・経営企画部・経

営企画課長の古源さんと同課の池澤さんとの面談が始まる。機関誌「オホーツクの風」や研修医の先生方との焼き肉での交流やブラックジヤックセミナーなどの資料を示し、当会の活動のあらましを説明、そして現地では荒川院長外多くの皆さんにお世話になっているとのことのお礼を申しあげる。

熱心に説明に耳を傾けた古源課長は、

大変有り難いことで感謝していますと丁寧なお言葉を戴き、うれしさがいっぱいになった。

面談後、同じ階に展示してある「ソルフェリーノの啓示」を鑑賞した。この作品は東郷青児（1934（昭和9）年・没）が現地を訪れ、構想を練って描いた176×286センチの油彩カンバスです。やはり、本物は素晴らしい。



殉職救護員慰霊碑



1階 ロビー、アンリー・デュナンと佐野常民の胸像

お二人の対応に感激し、お礼を申しあげ、本社を後にした。



上 経営企画課長と課員・下 油彩画「ソルフェリーノの啓示」の前で



今年5月8日、「病院食で健康づくりに貢献 振興局、北見赤十字を表彰」の記事が北海道新聞に掲載された。

この事は本紙の記事になると、同院の井田栄養課長さんの協力を戴き、1面で特集を組んだ。

「第8回北見での思い出づくりの集い」はお天気に恵まれ、令和6年7月28日（日）、事故も無く無事に終了した。それを2、3面で取り上げた。このイベントは長く続いているので、今回はその始まりにスポットを当てた。また毎年10万円ほどの予算で実施しているが、過去にその資金手当ての壁に阻まれ、例会が紛争し、大変な時期もあったが、これからも、会のレガシーとして継続する事をここで再確認したい。

旅の余談

今回の旅はこのほかに、KOYO33東京ミーティングの事務局として企画を担当、そして上京することであった。

網走の向陽高校を昭和33年に卒業した在京の同期生3人との小宴でしたが、浜松町の居酒屋で懐

かしく大いに、盛り上がり、夜の更けるまで楽しんだ。ただ、二人の同期生が直前に体調不良で欠席したのが残念である。

またNHKホールでジョンウイリアムの楽曲を日本フィルハーモニー交響楽団の演奏で楽しみ、帰途、札幌芸術の森美術館で遠藤彰子の展覧会を鑑賞した。

